

1.背景

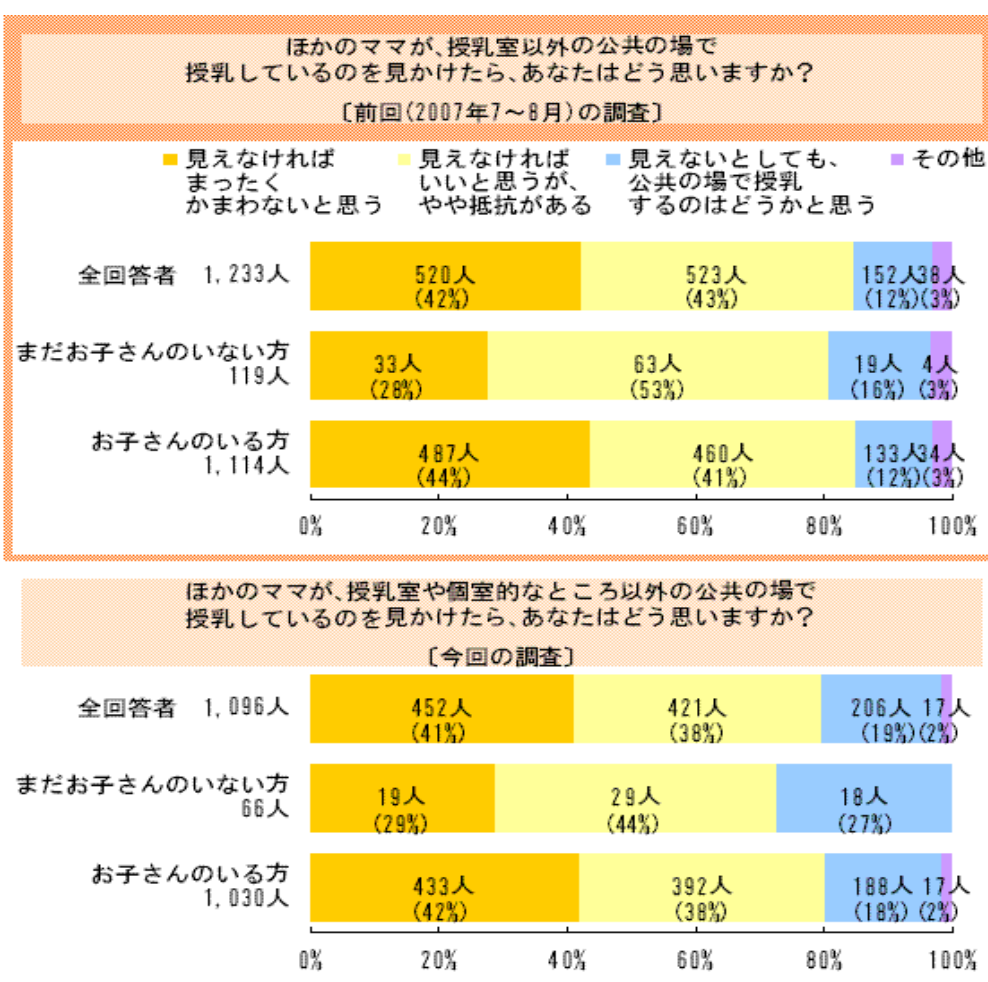
「赤ちゃんの駅」とは？

- ・乳幼児の保護者が外出先で気軽に授乳やおむつ替えなどで立ち寄れるような北九州発祥の施設。
- ・現在は授乳スペース、おむつ替えができる設備のどちらか一方を提供できれば「赤ちゃんの駅」に登録することができる。

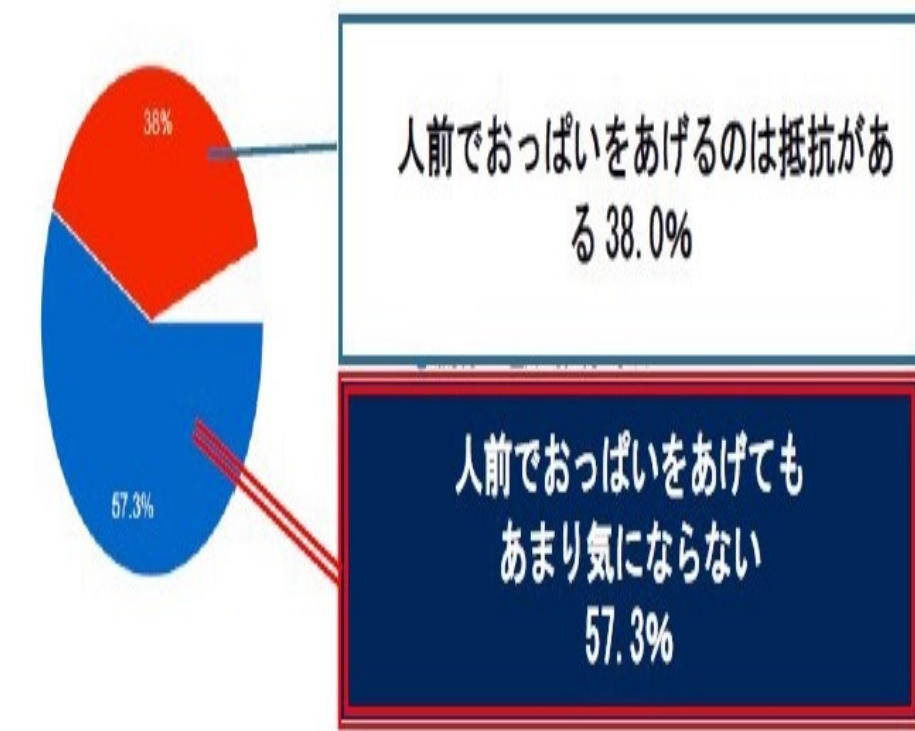
赤ちゃんの駅の現状

- ・現在ある赤ちゃんの駅は乳児に特化した施設でありある特定の年齢の子供しか使えないばしょになっている。また場所によっては閉鎖的であったり不衛生な所もある。

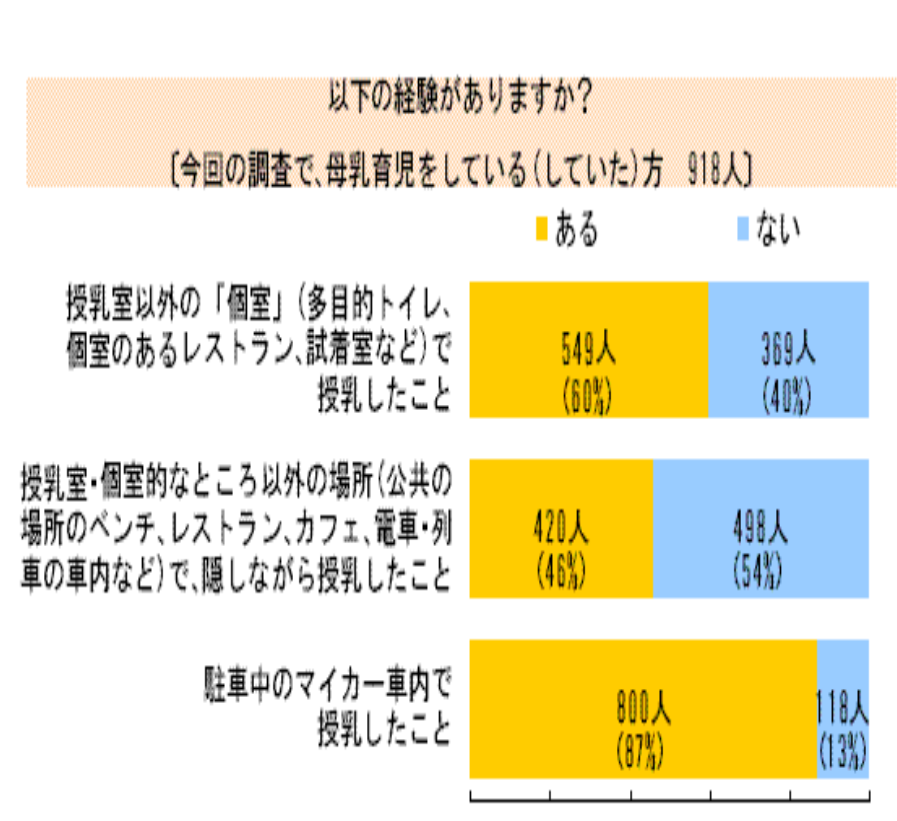
公共の場での授乳についてのアンケート (図1)



人前で授乳することの意識 (図2)



授乳室がない場合の授乳について (図3)

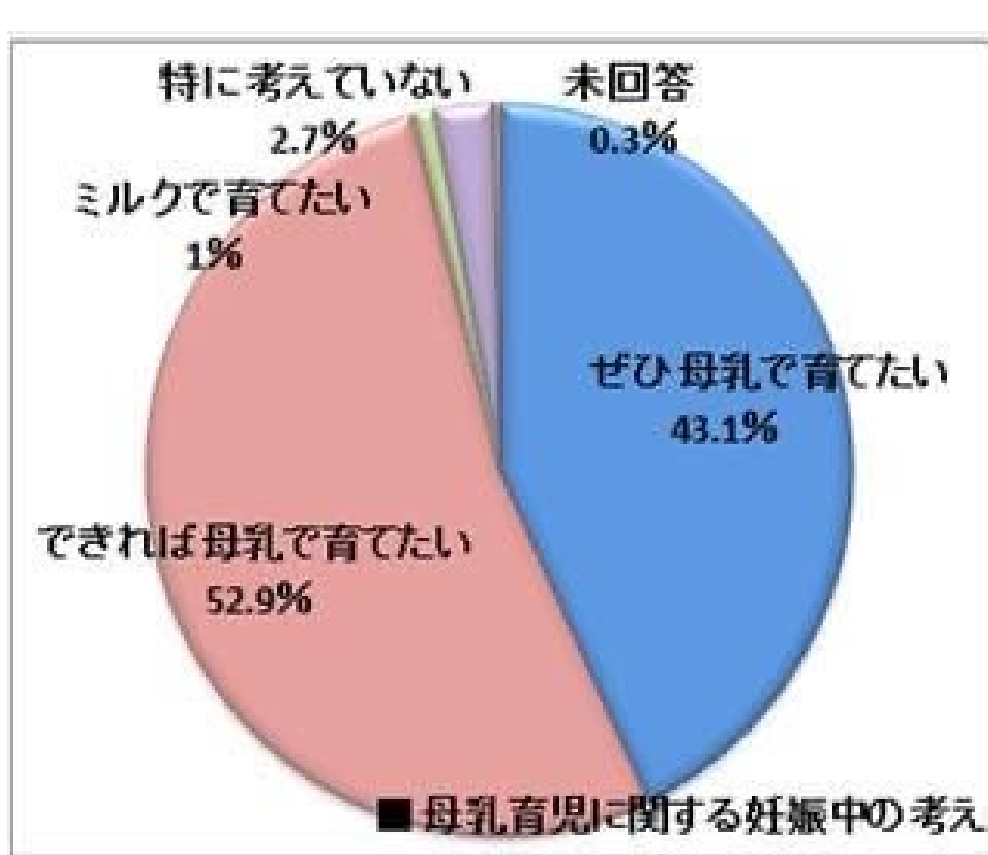


第88回ベピカムweeklyリサーチ 外出先での授乳

母子の育児支援ネットワーク 2018年2月13日

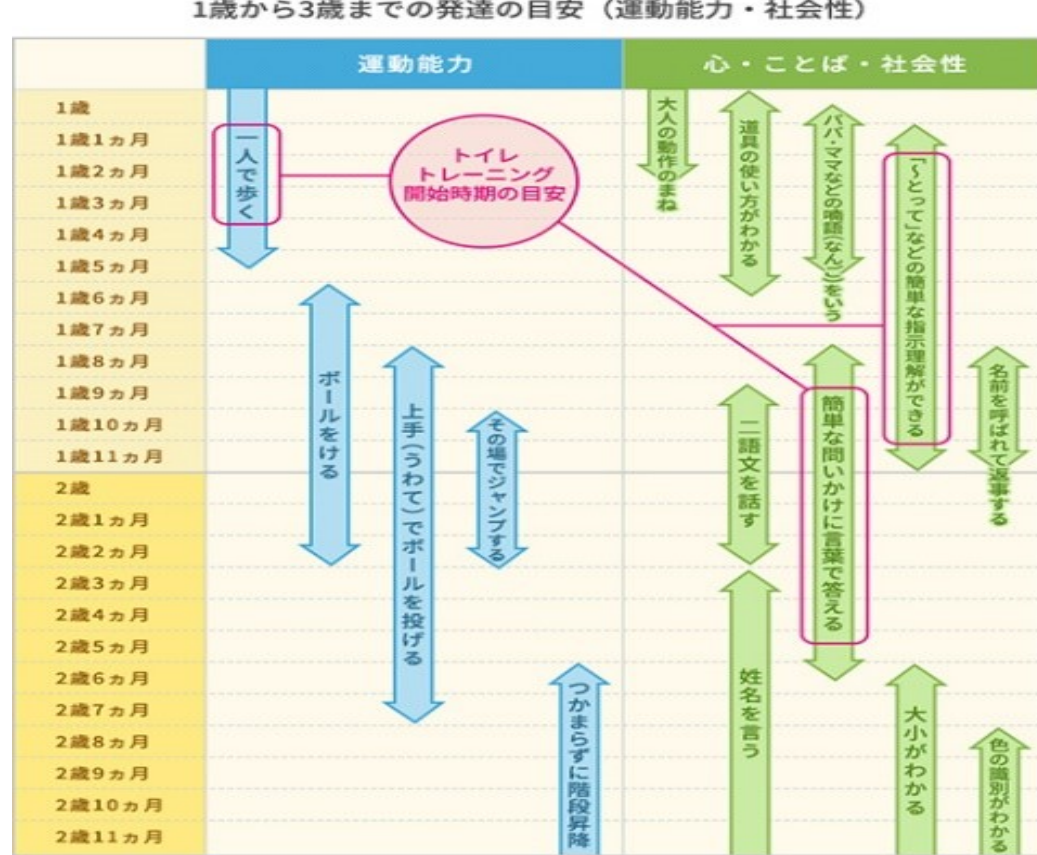
第88回ベピカムweeklyリサーチ 外出先での授乳

母乳育児に対する回答 (図4)



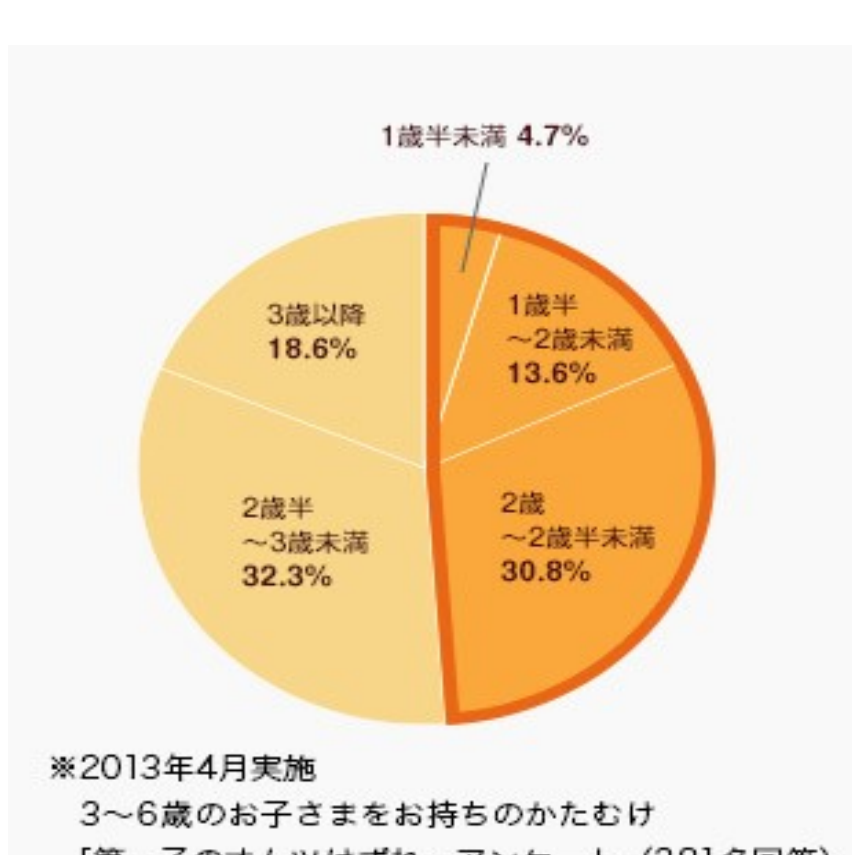
2005年乳幼児栄養調査

1歳～3歳までの発達目点(図5)



ベネッセ教育情報サイト

オムツはずれの年齢 (図6)



ベネッセ教育情報サイト

授乳について

上記のデータから授乳をオープンにできるが保護者が安心して授乳できるような環境づくりが必要だということが分かる。

幼児の施設づくりについて

幼児の自我を尊重するために低い壁を設けて子どもだけのスペースを作る必要がある。(図5)

また、トイレトレーニングを始める年齢が1～2歳半が約半数いることから、小さいトイレの需要は1歳～2歳で必要になる。(図6)

2.実施内容

私たちの提案する

「子どもの駅」「みんなのリビング」「ミルクタイム」

- ・幼児を対象とした「子どもの駅」、親子で休憩、ベビーカー離れた子どもが休憩できるための「みんなのリビング」という仕組み作りをし、店や商店街の一角などまちのあらゆる場所に設置。
- ・ロゴマークをつけることで誰でも気軽に休憩できるスペースだと分かりやすく示す。

ロゴマーク案



「子どもの駅」について

子ども用のトイレ
仕切られた着替えスペース



子どもの自我を尊重し、かつ親が安心して見守れるつくり。



乳幼児の着替えスペース兼授乳スペース

- ・自分でトイレをしたいという気持ちに応えるために低い壁をつけることで幼児も大人同様トイレができ、かつ親が安心して見守れるつくり。
- ・着替えスペースは、乳児より大きい子が立っておむつを替えるためであり、トイレトレーニング中の子どもがトイレを失敗してまった時の着替えスペースとする。また椅子を用意し授乳スペースとしても活用できる。

「みんなのリビング」について

座れる場所
絵本やおもちゃがあり子どもが遊べる場所である



- ・ベビーカー離れた赤ちゃんとお母さんが一緒に休憩できるスペース。また、まちなかに遊び場を増やし子ども同士の交流の場として活用できる。

「ミルクタイム」

赤ちゃんにとってもお母さんにとっても快適に授乳ができる場所
閉め切られた場所でないところ



- ・開放的で気持ちの良い、かつプライバシーが保たれる場所で授乳していく仕組みを作ることで公共の場での授乳の認知、普及を高めることを目的とする。

3.今後の展望

アイデア実現主体

北九州市役所子ども家庭局総務企画部
(「旧赤ちゃんの駅」の登録を管理しているため)

→市役所に新たに駅を作ることを提案と登録の基準について提案する。

実現に必要な資源

ヒト 小倉で活動しているNPO団体、
小倉の商店街で活動している団体、個人

モノ 民間企業、ネーミングライツパートナーや、
商店街の方々に協力依頼

カネ ネーミングライツパートナーや商店街の方々に依頼

内容/期間	2020年	2021年	2022年
「新赤ちゃんの駅」 「子どもの駅」 「みんなのリビング」	取材 子育て支援冊子作製	テスト版運用	運用
資金調達			

育児用品メーカーpigeon、幅広い世代の教育事業を行う株式会社ベネッセコーポレーションなど子育て支援に関連する会社にネーミングライツパートナーになってもらう。それぞれの駅に置くおもちゃや絵本、商品を提供してもらい、試作品など積極的おける環境をまちのなかにつくことで子育て支援を整える。